

# 余熱を活用した園芸施設に関するサウンディング型市場調査の対話結果の公表について

令和5年6月19日  
一関市農林部農政推進課

## 1 サウンディングの参加者

2社

## 2 サウンディング結果の概要

	対話の項目	対話の概要
事業の実現性について	余熱の利用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設園芸の暖房用の熱源としての利用</li> <li>ヒートポンプの補助熱源としての利用</li> <li>熱供給施設側で、メンテナンスのため一定期間焼却炉を停止した場合の対応として、補助的な熱源の準備は必要</li> <li>施設園芸での冬季間の暖房の熱源としての利用</li> <li>乾燥野菜を乾燥するための熱源としての利用</li> </ul>
	園芸施設の建設イメージ（規模・配置等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>品目にもよるが、事業の採算性を見込むには、平坦で一団の農地が最低でも3haは必要</li> <li>用地の規模に応じた作物を栽培する。（事業用地が狭い場合は高収益作物、用地が広い場合は人件費を抑えるため手がかからない作物を栽培するなど工夫する）</li> </ul>
	用地の確保や整備に関するアイデア	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状の農地のまま、中間管理機構を仲介した賃貸による対応</li> <li>焼却施設に隣接することから、焼却により排出されるCO2を活用した取組</li> <li>平坦な一団の土地が必要</li> <li>用地は事業用地の確保を優先し、調整がついた用地規模の中で事業展開可能</li> </ul>
その他	整備に関するスケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の採択の状況にもよるが、熱供給施設のスケジュールに合わせた園芸施設の設置は可能</li> <li>熱供給施設の実施設設計の検討（温水の供給場所の位置検討等）に加わりたい</li> </ul>
	事業への参加意欲	<ul style="list-style-type: none"> <li>想定している事業用地が確保できれば参加したい</li> <li>事業参加の決定は、各種補助金が獲得できるかが重要となる</li> <li>障がい者、高齢者の働く場の確保を行いながら事業展開したい</li> </ul>
	事業実施にあたっての課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>積雪による被害が心配である</li> <li>事業実施にあたって、県・市の協力は不可欠</li> <li>10tトラックが出入りできるような幅の道路が必要</li> <li>作物栽培に必要な井戸水の確保</li> </ul>